



## 視覚障害に応じた教材・教具

教科名	教材・教具名	対象児童生徒の状態
教科・領域 (「解剖学」「あんま実技」 「鍼実技」) その他 ( )	フェルト製筋模型	理療部 (全盲) ・ (弱視)
ね ら い	「触ってイメージを作る」 ・筋の位置と名称を理解する。 ・構造の複雑さ、言葉で説明する難しさを補う。 ・実物の筋は見るできないため、視覚・触覚によりイメージが持てるようにする。	
制 作 方 法	(1) 材料 ・トレーシングペーパー、フェルト  (2) 制作のポイント・工夫 ・触察し易いように筋線維の流れをデフォルメする。 ・数種類の筋を作成する場合や筋が重なる所は、色やフェルトの厚さを変えると良い。 ・筋の起始・停止は出来る限り正確に表現する  <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
使 い 方	・人体模型に貼り付け、筋の大きさ、位置、名称、起始・停止を学ぶ。 ・筋が重なっている部位を手で触れることにより、筋の深浅を確認し、実際の人体の筋層をイメージする。	
改 善 点	・フェルトと骨模型を張り合わせる際しっかり貼らないと生徒が触察する時剥がれてしまう。何時間も骨模型に貼ったままにしておくと、骨模型の塗装が剥がれてしまったり、べたべた感が残ったりすることがある。良質の両面テープを使用し、使用後はすぐに剥がした方が良い。	